

令和五年 十一月 四日 実施

龍谷大学付属平安中学校

ドラゴンテスト問題

受験番号

国語

解答上の注意

- 一. この問題用紙は「はじめ」の合図があるまで開いてはいけません。
- 二. 答えはすべて解答用紙の決められたところに書きなさい。
- 三. 解答用紙の決められたところに受験番号を書きなさい。氏名を書いてはいけません。
- 四. 問題を読むときに、声を出してはいけません。
- 五. 問題内容についての質問は受けません。
- 六. 印刷が読みにくいときは手をあげて監督者を呼びなさい。
- 七. 「やめ」の合図があったら解答用紙をおもて向け、問題用紙を解答用紙の上に置いて、回収が終わるまで席を離れてはいけません。（問題を持ち帰ることができません）

問題は次のページから始まります。

□ 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

① 楽に生きるとは、どういうことだろうか。人間が生きて行くということは、外界の流れの中にある自分を保つことである。外側の流れを変えることは、一国の総理大臣にさえ不可能なことが殆どだから、私たちとしては受けて立つ他はない。そこで、流れに抗したら、外圧は非常に大きくなる。A、木の葉が流されるように、世間の言うなりになったのでは、(もしあるとすればの話だが)人間の尊厳などというものも何もなくなくなってしまう。

私は、はつきり言って、流されっぱなしだけはごめんだと思う。自分を保ちたい。自分の一生なのだから、自分の判断によって、運命を試してみたい。B 死ぬ時に、恐らく「ああ、自分がまちがっていた」と思うことも多いのだろうが、その時は、自分を憐れんで、「バカな奴だったなあ」と言って死ぬつもりなのである。

自分の生き方はしたいけれど、頑張って生きたくはない時、どうしたらいいだろう。これが私の長い間の問題であった。そして、答えは出ないまでも、やや解決策に近いものを幾つか、私は探り当てたのである。

その第一は、ひとによく思われようと思うことを、あつさりやめてしまうことである。C、投げやりに、どうでもなれ、と思うことのように見えるかも知れないが、そうではないのである。少し、私の場合を例にひこう。

私は、小説家としての生活と、一人の家庭人としての、二つの生活をしているわけだが、その作家の仕事について、③ 結果を期待するのは一切、やめにしたのである。私も平凡な人間だから、ひとから作品を褒めてもらおうと、嬉しいし、私自身、お

世辞ではなくて、他人の才能に感心して暮らしたいとは思っているけれど、自分が書いた作品が、どんなふうに評価されるだろう、と考えることは、作品を書く上に、全くプラスにならないことに気がついたのである。作品を何のために書くか、という時、それは、私の場合は、自分のためである。※ デイレッタンティズムをふり廻してそういうのでもなく、読者を無視して、そんなことを言っているでもない。昔パウル・バック ※ 女史が日本に来られた時、私は ※ かけ出しの小説家として、※ 招宴の ※ 末席につらなり、機会を与えられたので、「あなたは小説を誰のためにお書きになりますか。ご自分のためですか、それとも人びとのためですか」と質問したことがある。するとバック女史は、はつきりと、「私は X に書いています」とおっしゃった。私はその時、ああこの方は、私と違うタイプの作家だな、とは思った。

読者というものは、私にとつては、あるのだろうとは思いますが、その一人一人の性格を知ることできないし、又、わかったと思つたら、失礼な存在なのである。知らない相手に向つて、その人向きに書く、ということは私にはできない。私にできるたった一つの誠実は、読者にどう思われるかわからないが、できるだけ正直に、自分の世界をさらけ出し(それは決して単純に私小説を書く、ということではない)もし気のむいた読者が、一人でもあつて読んで頂くことになれば、それが出会いのしあわせだ、と思うことにしたのである。

つまり ④ そういう形で、書き終った作品がどのような受けとられ方をしようと、私は気にする意味がない。或る人は私の書いたものでムカッ腹を立て、或る人は居眠りをし、或る人は僅かばかり同感して下さる。しかし、私にとって見れば、ムカッ腹も出会いなら、読者に眠りを与えたということは、もしかし

たら最高の手柄かも知れない。世の中に不眠に悩んでいる人が、実に多いことを思えば、眠らせてあげたということは、かの有名なヒルティ先生（『眠られぬ夜のために』の著者）にも劣らぬ※**偉業**をなしとげたことかも知れない。しかし、だからと言って、私は自分が、カール・ヒルティと同じくらい、いいことを書く人間だと思ふ必要もないので、**D**、書いたものの行方を追うのは、どんな意味でも※**浅ましい**ことだ、と私は思えたのである。

それ以来、私は、書くという作業に付属する余計なことから解放された。どの雑誌に書いたらいいか、などということ考へることもなくなった。世間には計算高い人がいて、中間雑誌に書くと、中間作家だと思われるから決して書いてはいけない。純文学雑誌にだけ書けば、純文学作家になれる、というふうな**処世術**を持つ人もいるが、そんなことも、私には無縁の話になった。書くテーマがあり、それに必要なスペースが与えられ、表現に関する制約とその雑誌がとっている社会の捉え方に違和感を感じなければ、私はどんな雑誌にでも書いた。問題は、発表の場ではなく、私が書くこうと思うものを持ち合わせているかどうかだった。それが**I**、ということではなく、その作品に関して、私は**II**であった。

一般に、自分がよく思われたいと期待する時に、そこに奇妙な緊張を生じる。よく思われて、褒められなくても、私は私なのである。褒められたからと言って、私の実質に変化があるわけではなく、けなされたからといって、私の本質まで急に悪くなるわけではない。

時々、世間には、「悪者」だと言われる人が出て来るが、その人が、どの程度「悪者」であるか、「善人」であるかは、世間の風評とは全く関係ない。良く思ってもらうことを、世間に

期待しなくなると、人間は⑤**地声**で物を言っていればよく、とびはねて歩かなくても大地を踏みしめて立っていられ、まことに楽になる。世渡りからみると、これは下手なのだろうが、この自然さは、精神に風通しをよくするから、健康にいい。

（曾野綾子 『人びとの中の私』）

※（文中のことばの意味）

尊厳 …… 尊く、おごそかで、気高く威厳があるもの。

ディレクタンティズム …… 仕事としてではなく、自分自身のために文学や芸術を楽しむ人。

女史 …… 社会的地位のある女性に添える敬称。

かけ出し …… やり始めたばかりの初心者。

招宴 …… 人を招いて開く宴会。

末席 …… 下位の座席。

偉業 …… すぐれた仕事。

浅ましい …… 嘆かわしい。みじめだ。

処世術 …… 社会生活をしていく上での方法。世渡りの方法。

問1 **A**と**D**にあてはまることばの組み合わせとして、

最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- | | | | | |
|---|-------|------|-------|------|
| ア | Aさりとて | Bそして | Cというと | Dつまり |
| イ | Aというと | Bしかし | Cそして | Dつまり |
| ウ | Aつまり | Bだから | Cけれども | Dさらに |
| エ | Aつまり | Bそれに | Cさらに | Dしかし |

問2 ———線①「楽に生きる」とありますが、この文章ではそれはどういふことだと述べられていますか。最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 自分をあわれんでなぐさめながら生きること。
- イ 自分の仕事を適当にやりながらじょうずに生きること。
- ウ ひとによく思われようと期待しないで生きること。
- エ ひとの意見に従って楽しみながら生きること。

問3 ———線②「バカな奴^{やつ}だったなア」とありますが、「私」が死ぬときにこのように言うことができるのはなぜですか。最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 自分の一生に対して自分を憐れみながらも、自分を保つたことに満足しているから。
- イ 自分の一生に対して自分を憐れみながら、多少の後悔^{こうかい}を感じているから。
- ウ 自分の一生に対して自分の間違い^{まちがひ}に気づきながらも、頑張ったことを喜んでいいるから。
- エ 自分の一生に対して自分の間違いに気づき、なさげなく思っているから。

問4 ———線③「結果を期待するのは一切^{いっさい}、やめたのである」とありますが、なぜですか。最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 「私」は平凡な人間であり、他者から評価を受けるのは嬉しいことだから。
- イ 他者からの評価を気にしては、ありのままの自分を出すことができないから。
- ウ 仕事をしてお金を稼^{かせ}ぐより、自分や家族のために働くことが大切だから。
- エ 他者の評価を気にすることは、応援^{おうえん}してくれる読者のためにならないから。

問5 X にあてはまることばとして、最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 仕事のため
- イ 自分のため
- ウ 作品のため
- エ 読者のため

問6 ———線④「そういう形」とありますが、どのような形ですか。最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 作品は完成した時点で作者から離^{はな}れたものとする形。
- イ 読者を考えず自分のために自分に正直に書く形。
- ウ すばらしい作品の完成を目指して努力し続ける形。
- エ あらゆる読者に向かって自分の主張を訴^{うた}える形。

問7

I・IIにあてはまることばの組み合わせとして、最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア I どれだけ力を出せたか
II どれだけ期待されているか
- イ I どれだけ期待されているか
II どう評価されるか
- ウ I どう評価されるか
II どれだけ力を出せたか
- エ I どれだけ力を出せたか
II どう評価されるか

問8

線⑤「地声で物を言っ」とありますが、「地声で物を言う」とはどのような意味ですか。最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア ひとの意見を参考にして自分の意見を述べること。
- イ 相手の目を見て自分の意見を述べること。
- ウ 腹から大きな声で自分の意見を述べること。
- エ できるだけ正直に自分の意見を述べること。

問9

本文の内容として、ふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 他者からどう見られるかを気にしすぎるより、自分に正直に生きることによって、精神的なしあわせを得ることができる。
- イ 自分の本質は他者からの評価によって決まり、他者への思いやりを欠かさずに生きることが、精神的に楽で健康な生活を送ることができる。
- ウ 自分に正直に生きることが大切であり、精神を自然に風通しよくすることで、他者に期待することなく自分を大切にすることができる。
- エ 楽な生き方とは何かを考えることで、他者と自分どちらを重視するのかのバランスが保たれ、人生を豊かにすることができる。

□ 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

杉並区明神通り自治会が発行している町内会ニュースにそのお知らせが載ったのは、三月の第一週のことであった。日曜日のランチを囲んでいるリビングのテーブルの上で、それを広げながら、「また変な企画が始まったわよ」と陽子は笑った。三十三歳にしては幼い顔つきの目許にそれでも微かな小じわが寄った。

① どうしてこんなことばかり考えつくのかしら」と陽子はトーストを嚙りながら言った。リビングの南の窓からは、柔らかな春の日差しが降り注いでいて、② それが床の上で光の輪を作っていた。その中心で、一歳になったばかりの美奈が二匹の子犬と並んで昼寝をしていた。

「また新企画？」と僕はコーヒーを飲みながら、陽子が広げるパンフレットのような会報に視線を注いだ。

一緒に神様を探してみませんか？

明神通り自治会では、町内会の親睦を深めるために春恒例の、探し物ツアーを企画しました。一昨年は杉並区内にいる※ツチノコのような生き物と白いカラス、昨年は行方不明になった町内会の犬と猫と鳥の搜索を企画し大変な盛況でした。今年はずばり、神様搜索隊です。3月の第2と第4の日曜日午前8時に、明神マンションの看板前にお弁当持参の上、A。午後5時解散の予定です。

明神通り自治会会長 大沢 篤

「神様かあ」と僕は娘の寝顔を眺めながら言った。ロングコートチワワという種類の毛の長いチワワが美奈の体にピッタリと寄り添うように眠っていた。

「神様なんか探してどうするのかしら」と陽子は※怪訝な顔をした。③ 町内会で神様を探すツアーなんかを企画されれば、誰だってそんな表情をするしかなかった。だいたいにおいて、春と秋にこのツアーを始めてからもう三年以上にもなるが、当然のことながら一度だって④ 成果らしい成果を上げたことがない。ツチノコも白いカラスも、行方不明の犬も鳥も何一つ発見されなかった。

「どうせまた大沢さんの孫の発案よ。テレビか何かの影響だと思わ。神様は案外あなたのそばにいるのかもしれない、とかいうナレーションに反応したのよ。決まっているわ」

そう言うわりに陽子は、このツアーの熱心な参加者である。僕とこのマンションに住みはじめてから、妊娠中以外はすべて参加しているはずだ。しかもこのツアーは実際に人気があつて、開催されるたびに主婦が三十人と老人が二十人、それに子供が三十人くらい集まるんだそう。そしてあり得もしない何かに⑤ ⑥ がこつつけて、空き缶やゴミや煙草の吸殻を拾って歩くのである。神様を探しながら町内を隈なく歩き回り、結局はゴミ掃除をさせられているというわけだ。

しかし大沢会長が発案した空き巣探しツアーは大成功を収めている。犬の散歩がてらに、町内会の会員に空き巣や泥棒探しをさせるといったそれだけのことなのだが、開始してから明神通り町内会の空き巣被害は激減し、大沢会長は警察から表彰を受けた。もちろんそれによって空き巣が見つかったというわけではない。しかし犬の散歩のついでに、空き巣搜索中の腕章をつけて回るだけで、目に見えない空き巣は鋭く反応した。明神通り町内会の空き巣はほぼ皆無になり、そのかわり周りの町内会での被害が激増したのだという。

「行くんだらう？」
「まあ、いつものことだから」と空き巣搜索隊のメンバーでも

ある陽子は⑥朗らかに言った。

「しかし、よりによって神様とはなあ」と僕は溜息をついて冷えたコーヒーを飲み干し、それでその日のその話は終わった。

陽子がぐったりとした顔で帰ってきたのは三月第二週の日曜日、午後六時過ぎのことであった。何しろ午前八時集合の神様搜索ツアーである。お昼休みの一時間の休憩を除いては、八時間にも亘って神様を探しながら町内の隅々を練り歩いてきたことになる。

その間、僕は美奈の面倒を見る⑦羽目に陥った。サラリーマンである僕にとって、折角の貴重な日曜日が台無しである。泣きだしてはおむつを替え、ミルクを温めて口にくわえさせた。

そのひとつひとつのことを、順序通りにしてやるだけで、美奈は泣き止み「ダアダア」と僕に甘え、やがて健やかな眠りにつくのである。娘が生まれてからこの一年、僕が一日中面倒を見るのは初めてのことだった。美奈にしてもこんなに長い時間、母親と離れたのは初めてのことだろう。美奈が泣くたびに僕は抱いてあやして、そしてこう囁いた。

「しようがないよ、美奈。何しろお母さんは今、神様を探しに行っているんだから」

三月の第四週もほとんど同じだった。⑤僕は朝から美奈を抱いておもりに専念した。二匹の子犬が美奈に対して驚くほどに優しいのは、小さな発見であった。僕がベビーベッドに美奈を寝かせようとすると、リビングの南側の床に敷いてある毛布の上で二匹の犬はワンワンと鳴くのである。それがここに美奈を連れてきてくれということだと気がつくのに、しばらく時間がかかった。その場所に美奈を寝かせてやると、犬は安心したようにピタリと寄り添って眠るのである。光の輪の中で健やかに眠る美奈と二匹の犬の姿は、もしかしたらこれが家族の幸せと

いうもので、気がついていないだけでももしかしたら自分はそれを手にしているものかもしれないという気分させた。陽子が不在のときに、そう思ったということが何ともいえず印象的だった。

「疲れた。ぐったりよ」と本当に疲れ果てた表情で陽子は言った。

「神は不在でしたか？」

「ええ。でも桜はきれいだったわ。帰り道にみんな話していたの。病院の前の空き地にあるあの大きな桜、あれがきつこの町内では神様に一番近いものではないかって。ほんとうにそのくらいに美しいのよ」

「それはわかるような気がする」

「美奈は？」

⑥「元氣だよ。一日中、御機嫌だった」

「ありがとう」と陽子は仄かな笑顔を浮かべた。それは六年前に付き合いだしてから、僕がもっとも好きな表情で、その笑顔を見るのも久しぶりだなと思った。

「今日、考えていたんだけど」と僕は言った。「神様はきつと町内のどこかにいるのかもしれない。ただ空き巣と同じでね、探し回ると隣の町内会に逃げ込んでしまうんだ。だから、そういう風にして神様はいくら探し回っても見つからないんじゃないかって。探さないほうがいいんだ、きつと」

「大沢さんの奥さんが、相当に深刻な癌なんだって。もう半年ももたないかもしれない。いつまで生きるのって孫に聞かれて神様にしかわからないって答えたのが、今回のツアーのきっかけだそうよ。だったらおじいちゃん、みんな探してきてって言われたのね」

「そうかあ」

「だから大沢さんも何となく必死だった。私たちもそれなりに

必死。おかしいでしょう」

僕は満開の桜の下に立つ大沢会長の姿を思い浮かべた。春がきて空を埋め尽くすように桜が咲き、そしてそれがやがてあとかたもなく散ってゆく。毎年毎年、何度も何度も繰り返されるその光景を、今年の彼はどんな気持ちで眺めていたことだろう。

“神様は見つかりませんでした。
皆様の御協力に心から感謝いたします”

次の会報に結果が報告された。割りきったようにさばさばとした感じの、その二行を⑦ 僕と陽子は溜息をつきながら何度も何度も繰り返し返し眺めた。ツチノコもいなかったし、白いカラスもいなかったように神様もいなかった。まったくその通りだと思ふ。

明神通りの町内会の会報の報告はいつだって正直で正しい。そこに発表されるまでもなく、確かに神様はいない。探せば探すほど、必要であればあるほど。⑧ 少なくとも僕らの町内の、誰かの目につくようなところには。

(大崎善生 『神様捜索隊』)

※(文中のことばの意味)

ツチノコ : 言い伝えられている生き物の一つ。

怪訝 : 不思議に思っ、納得がいかない様子。

問1 線⑦⑧のことばについて、文中における意味と

して最もふさわしいものを次の中から一つずつ選び、それぞれ記号で答えなさい。

① かこつけて

- ア お願ひして
- イ 準備を整えて
- ウ 理由づけして
- エ ご縁を感じて

② 朗らかに

- ア たのしげに
- イ おだやかに
- ウ にぎやかに
- エ てきとうに

③ 羽目に陥った

- ア 仕方がない機会にめぐりあった
- イ 勝手に行動することになった
- ウ おもしろい立場におとされた
- エ 困った状態になった

問2 ———線①「どうしてこんなことばかり考えつくのかしら」とありますが、この時の陽子はどのような気持ちですか。最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア いつものように変わった企画なので、参加することを夫が認めてくれるか不安を感じる気持ち。

イ 思いもよらない企画にとまどいながらも、内心ではどんなことになるかと期待を抱いている気持ち。

ウ もう少し常識的な企画にしてくれば夫を誘うことができるのに、と少し残念に思う気持ち。

エ 今回は参加を見送ることで、ばかばかしい企画を立てた会長に対して不満を表す気持ち。

問3 ———線②「それが床の上で光の輪を作っていた」とありますが、この表現の説明として最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 文章後半の桜の描写と対応しており、この町内に神様が存在するかもしれないことを強調する効果がある。

イ 文章後半の陽子の描写と対応しており、太陽の描写によって陽子の気持ちの変化を強調する効果がある。

ウ 文章後半の美奈と子犬の描写と対応しており、美奈と子犬がすくすくと成長している様子を強調する効果がある。

エ 文章後半の「僕」のおもりの描写と対応しており、「僕」の家族に対する気持ちを強調する効果がある。

問4 **A**にあてはまることばを、敬語を用いて五字以上十字以内で答えなさい。ただし、「集まり」ということばをそのまま使用すること。

問5 ———線③「町内会で神様を探すツアーなんかを企画されれば、誰だってそんな表情をするしかなかった」とありますが、なぜですか。最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 見つかるはずのない神様を探そうとすることに違和感を持ち、その目的をはかりかねているから。

イ 町内での今回のツアーは探す対象が実体でないために、参加者が大幅に減るのではないかと心配したから。

ウ 狭い町内で神様を発見するには難があり、搜索の範囲を広げる必要があるのではないかと疑問に思ったから。

エ これまでと比較しても困難な探し物なので、信仰心を持たない自分には発見できそうにもないと不安を感じたから。

問6 ———線④「成果らしい成果」の「らしい」と同じ意味を持つものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 僕らはまたもやだまされたらしい。

イ 明日から寒波が襲来するらしい。

ウ 銀行を襲った犯人は二人組らしい。

エ 一度決めたことを曲げないのは彼らしい。

問7

——線⑤「僕は朝から美奈を抱いておもりに専念した」とありますが、「美奈」の面倒を見る経験によって「僕」はどんなことに気づかされましたか。文中の言葉を用いて、「自分がくこと」の形に合うように十字以上十五字以内で答えなさい。

問8

——線⑥「『ありがとう』と陽子は仄かな笑顔えがおを浮かべた」とありますが、この時の「陽子」の気持ちはどのようなものだと考えられますか。その説明のI・IIにあてはまることばを字数にしたがってそれぞれ考えて答えなさい。

とても疲れたが、思いがけず町内にある大きな桜の
I 三字 を発見することができたのは、娘の面倒を
見てくれたおかげだと、夫に II 二字 する気持ち。

問9

——線⑦「僕と陽子は溜息ためいきをつきながら何度も何度も繰り返して眺めた」とありますが、なぜですか。最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 大沢会長が、ツアー当日はみんなまで必死に神様を探したのに、さばさばとしたたったの二行で報告を済ませており、その冷たさが悲しかったから。

イ 大沢会長が、きれいな桜を見ることができたのに、なおも神様が見つからなかったことを残念がっており、その欲深さにあきれたから。

ウ 大沢会長が、神様を見つけれず動揺どうようもあるはずなのに、嘘偽りうそいつわりのない立派な報告をたったの二行でしており、その誠実さに感心したから。

エ 大沢会長が、奥さんの余命がわずかという不幸に直面しているのに、ツアーの参加のお札を淡々と報告しており、その心中が思いやられたから。

問10

——線⑧「少なくとも僕らの町内の、誰かの目につくようなところには」とありますが、このあとに続くことばを文中から九字でぬき出しなさい。

問11 本文の内容として、ふさわしいものを次の中から二つ選び、記号で答えなさい。

- ア 妻の疲れた顔を見たことで「僕」は、もっと子供の面倒を見なければいけないと反省している。
- イ 町内会の会報は、事実をありのままに述べているという意味で、正直で正しいと言える。
- ウ 大沢会長が孫のために立てた企画は、参加者全員を童心に返らせる楽しいものになった。
- エ 貴重な休日を奪われた「僕」は、今回の企画を評価せず、終始批判的な姿勢を崩していない。
- オ 探し物ツアーは、搜索していたものは見つけれなかったが、思いがけない副産物を生み出している。

三 次の文の（ ）に体の一部の表す漢字をあてはめ、完成した慣用句の意味として最もふさわしいものをあとからそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。

- ① () に負えない
- ② () が高い
- ③ () を割る
- ④ () を貸す
- ⑤ () が回る

ア 包み隠さず真実を話す。
イ 得意な様子である。
ウ 自分の力ではとても処理できない。
エ 人の話をきこうとする。
オ めまいがするほどいそがしい。

④ 次の――線部のカタカナは漢字に直し、漢字は読みを答えなさい。

- ① 先生はやさしいクチヨウで話した。
- ② 手間をハブいて調理する。
- ③ 時間まで教室でタイキする。
- ④ 習い事の月謝をオサめる。
- ⑤ 足もとをライトでテらす。
- ⑥ せき止めによく効く薬。
- ⑦ 祖父が畑を耕す。
- ⑧ トラックで砂利を運ぶ。
- ⑨ 赤く熟れたトマト。
- ⑩ 礼儀作法を学ぶ。

これで問題は終わりです。